

DNP

株主通信

DNP Report Vol.100

(証券コード：7912)

[特集] あらゆる生活空間をターゲットとした価値の提供へ



P&I
Innovations

「第三の創業」の実現に向けて

株主の皆様には、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また日頃は格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

DNPグループを取り巻く経営環境は今、AIやIoTなどデジタル技術の進歩によって電子書籍やインターネット広告の市場が拡大し、生活者の属性に合わせたデジタルマーケティングも活発になっています。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、キャッシュレス化に向けた取り組みが加速しています。さらに、世界的な潮流として、環境に配慮した製品・サービスへの需要が一層高まるとともに、次世代のクルマ社会に向けた動きも活発化するなど、私たちにとって新たな成長の機会が広がっています。

DNPには、独自に進化させてきた、他社にはない「P&I（印刷と情報）」の強みがあり、それを掛け合わせていくことによって、「DNPならではの価値」を生み出すことができます。それは、社会の課題を解決する価値であると同時に、人々の気持ちをわくわくさせ、暮らしを心地よいものにする価値であり、生活や社会の基盤を持続可能で安全・安心なものにしていきます。



代表取締役社長 **北島 義斉** よしなり

DNPの持続的な成長

出版印刷業

総合印刷業

情報加工産業～ 情報コミュニケーション産業

1876

- 1876年：DNPの前身「秀英舎」創業
- 1907年：「日清印刷」創業
- 1935年：秀英舎と日清印刷が合併し大日本印刷発足

1951

- 1951年：「再建5か年計画」始動

1973

- 1973年：米国ダネリー社を抜き、世界最大の総合印刷会社に

1987

- 1987年：情報加工産業への変革を掲げる

「文明の営業」からのスタート

大日本印刷の前身となる2社が創業し、出版印刷を中心に事業を展開した時期に続き、戦後、印刷技術の応用・発展によって事業領域を拡大する「拡印刷」を推進して、「第二の創業」を果たしました。そして今DNPは、さらなる持続可能な発展に向けて、「第三の創業」の実現に取り組んでいます。

「拡印刷」による事業領域拡大（印刷事業の3つの部門）

情報
コミュニケーション



1983年

ICカードを開発
→現在のキャッシュカード、クレジットカード、交通系カード、ID証などに展開



1983～
1985年

溶融型・昇華型熱転写記録材を開発
→イメージングコミュニケーション事業の展開へ

生活・
産業



1951年

紙器、軟包装分野に本格参入
→包装事業の拡大へ



1951年

建材化粧紙の開発に着手
→生活空間事業の拡大へ

エレクトロニクス



1958年

カラーテレビ用シャドウマスクを開発
→ディスプレイ製品事業に進出



1959年

半導体用フォトマスクの開発に成功
→電子デバイス事業に進出

DNPは、事業ビジョンに「P&Iイノベーション」を掲げ、「知とコミュニケーション」「食とヘルスケア」「住まいとモビリティ」「環境とエネルギー」という成長領域で新しい価値の創出に注力し、中長期にわたって企業価値を拡大させていきます。

今回の「DNP Report」では、「住まいとモビリティ」の領域における取り組みをご紹介します。*私たちは住宅やオフィス、商業施設やホテル、学校や医療施設、自動車や鉄道車両など、人々が生活するあらゆる空間をビジネスの対象と捉え、心地よさと機能を兼ね備えた内・外装材などを幅広く開発、提供しています。また、空間づくりのサプライチェーン全体に総合的なソリューションを提供するほか、環境負荷の低減や健康への配慮、耐久性やデザイン性などを重視した製品開発を通じて、心地よい空間をグローバルに提供していきます。

*P4-5の「特集」をご参照ください。

当第2四半期も、価値の創出に取り組むとともに、事業の選択と集中による強い事業ポートフォリオの構築を推進しました。また、保有資産の見直しを進めるととも

に、資本効率の向上と株主還元のため、9月12日から3,000万株、600億円を上限とする自己株式取得を実施しています。当期間の連結業績は、売上高は前年同期比1.3%増の6,941億円、営業利益は12.5%増の256億円、経常利益は13.8%増の294億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は345.9%増の754億円となりました。

利益の配分については、これまでと同様に株主の皆様への利益還元を経営の重要政策と位置づけて、安定配当を行うことを基本とし、業績や配当性向などを勘案して実行していきます。当期の中間配当金につきましては、期初計画通り1株につき32円とさせていただきます。期末配当金についても、1株につき32円とさせていただきます予定です。

DNPは中長期にわたる持続可能な成長に向けて、自社の強みを活かすとともに、多くのパートナーとの連携を深め、変革への挑戦を続けてまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

P&Iソリューション P&Iイノベーション

2001

- 2001年：「DNPグループ21世紀ビジョン」発表

2015

- 2015年：「DNPグループビジョン2015」を策定

2018

- 2018年6月：代表取締役社長に北島義斉が就任

2020

- DNPは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナー（印刷サービス）

2003年

太陽電池用部材を開発
→1999年に製品化したリチウムイオン電池用バッテリーパウチ等とともに、エネルギー関連事業を拡大

「第三の創業」の実現に向けた3つの重点施策

- 〉 成長領域を中心とした価値の創出
- 〉 グローバル市場に向けた価値の提供
- 〉 あらゆる構造改革による価値の拡大

「4つの成長領域」



知とコミュニケーション

世界の人々が安全・安心にコミュニケーションの機会を拡大し、知を継承・発展できる未来



食とヘルスケア

世界の人々の生命への不安が解消され、生涯にわたって、安全・安心で質の高い生活を全うできる未来



住まいとモビリティ

世界の人々が暮らし、移動するあらゆる生活空間が快適で安全・安心に保たれている未来



環境とエネルギー

地球環境への負荷を減らし、世界の人々と地球が共生できる持続可能な未来



[特集]

あらゆる生活空間を ターゲットとした価値の提供へ



DNPは、“より心地よく機能的な生活空間の実現”を事業化テーマのひとつに掲げ、住宅や商業施設、鉄道車両や自動車の内・外装材など、人々が日々生活していく多様な空間に、高い安全性と快適性という価値を提供します。空間を心地よいものにする機能をプラスし、デザイン性に優れた製品を開発するとともに、IoTとも掛け合わせてスマート社会の実現に貢献します。

DNPの事業化テーマとターゲット市場

17.6兆円

▶スマートシティ関連事業

より心地よく機能的な生活空間の実現

*2022年度のスマートシティ関連の世界市場 (IDC Japan)

3.8兆円

▶次世代通信関連事業

5Gに向けた“ハード&ソフト”の価値創出

～「ICT基盤」と「モノづくり基盤」の高度化と掛け合わせ～

*2023年度の国内通信機器需要 (情報通信ネットワーク産業協会)

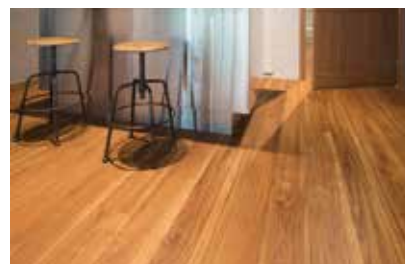
Printing Technology 進化し続ける信頼と実績のテクノロジー

DNPの建装材関連の事業は1951年にスタート。それ以来培ってきた技術・ノウハウを活かして、耐久性やメンテナンス性能などの機能を高めるとともに、用途に応じた最適なデザインの製品を数多く開発してきました。

DNPが生産する建装材の床板・鋼板は、国内市場でトップシェアを獲得しています。特に、樹脂層に電子線 (EB:Electron Beam)を照射して瞬時に強靱な塗膜を形成する「EBテクノロジー」を用いた床材は、日常生活

の傷や汚れに強く、紫外線にも強いという特長があります。さらに、多彩な木目柄など、上質なデザイン性も兼ね備えています。金属板に数ミクロンの薄さで塗装と印刷を施したDNPのデザイン鋼板は、オフィスや公共空間など、さまざまな場所の内・外装材に利用されています。

また近年は、モノづくりの強みに情報サービスの強みを掛け合わせて、空間に新しい価値を付加する製品・サービスを提供しています。



隈研吾氏が設計する玉川タカシマヤの壁面にも採用された、意匠性の高さが特徴の「アートテック®」。

Design Technology 世界へ。そして未来へ。暮らしをデザインし発信する

DNPは、家具や内装に使用する印刷シートを海外でも販売しています。機能とデザイン性を高めた新商材も展開し、近年では欧米を中心に、ビルの外装向けアルミパネル「アートテック®」、鉄道車両向け内装パネル、自動車向け内装機能材などの製品を開発して、販売を拡大しています。

こうした事業展開のなかで、人々の意識と行動を刺激するデザインは、ますます重要な役割を担うようになっていきます。マーケットのニーズを自ら把握し、DNPのデザイン力を駆使した

製品を提案する「イノベティブデザインセンター」の陣容を拡充。DNPブランドを強化し、海外での認知度をさらに高め、グローバルでのビジネス拡大を図っていきます。



「アートテック®」施工事例 (建物の外装)



インターツム 2019 のDNPブース

インターツムはドイツのケルンで隔年に開催される世界最大級のインテリア部材の展示会です。欧州を中心に世界各国の化粧板や木工部材、化粧シートや印刷関連のメーカーが出展。DNPは30年以上連続して出展しています。海外における生活空間事業のデザイン&テクノロジー発表の場として、非常に重要な展示会です。

世界最大級のデザインイベント 「ミラノデザインウィーク2019」に初出展

2019年4月、DNPが培ってきた高意匠の強みをグローバル市場にさらに展開していくため、毎年イタリア・ミラノで開催されるデザインの祭典「ミラノデザインウィーク」に初めて出展しました。



Photo: Daichi Ano

【Time Printing】DNPは、日本の伝統文様を現代的に解釈したデザインを提供しています。そのデザインと歴史ある江戸小紋をアクリル板に加工し、伝統を未来につなげていくコンセプト空間として提案しました。

【Patterns of Nature】自然界に多様に現れる模様をモチーフに、背景と同じパターンの電子ペーパーチェアを配置。見る角度によって、椅子の模様が浮かび上がったり消えたりする不思議な空間を演出しました。

DNPの出展コンセプト「Patterns as Time」には、パターンは単なる模様ではなく、生物が太古から受け継いできた機能や、古くより日本人が大切にしてきたグラフィカルなセンスもパターンとして捉え、これらの「人の感情に残る、触れる、響く」パターンを、印刷技術を通じて新しい形で未来につなげたいというDNPの想いを込めています。

このコンセプトを、“Time Printing”と“Patterns of Nature”の2つの異なるインスタレーションで構成し、江戸小紋など、日本の伝統的な色彩と文様を再構築したデザインを活かした展示や、自然界の生物が持つ模様をモチーフに電子ペーパーやITを駆使して表現する展示などを行い、印刷技術とデザインの融合が、斬新な空間づくりを可能にすることをアピールしました。

DNPの展示は、イタリア国営テレビを始めデザイン専門のメディアに多く取り上げられたほか、約3万人の来場者が訪れ、大きな関心と高い評価を得ることができました。



ピックアップニュース

2019年10月18日～11月4日開催

DNPの高付加価値アルミパネル内・外装材「アートテック®」を素材に使ったアート作品を展示

DNPは、東京ミッドタウンで開催されたデザインイベント「Salone in Roppongi」に協力。会場にはDNPの高付加価値アルミパネル内・外装材「アートテック®」を使用した柿木原(かきのきはら)政広氏のアート作品「Pieces」が展示されました。

「アートテック®」は、DNPの「P&I(印刷と情報)」の強みの掛け合わせによって、オリジナルで豊かなデザイン性と機能性を兼ね備えた内・外装材であり、建築物をはじめとする生活空間のさまざまなシーンに広く利用されています。イベント会場の吹き抜け空間に展示された作品の世界観を通じて、来場者に「アートテック®」の持つ素材感や意匠性の高さも感じていただきました。

アート作品「Pieces」は、正方形から円をくりぬいた後に残る、いつもは捨てられてしまう「かけら＝Pieces」に眼を向けたもので、サスティナブル(持続可能性)を意識したモビール作品です。



Photo: 近藤 篤

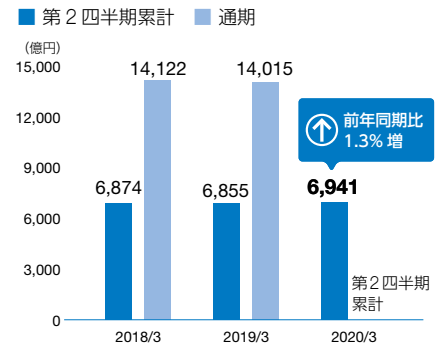
第2四半期決算のご報告 (2019年4月1日～2019年9月30日)

連結業績 当期(2019年4月1日から9月30日)
前期(2018年4月1日から9月30日)

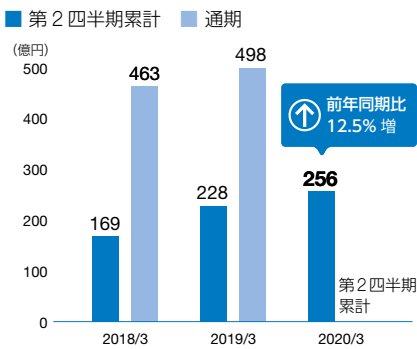
(単位: 億円)

科目	当第2四半期	前第2四半期	増減	連結業績の予想 (2020年3月期通期)
売上高	6,941	6,855	1.3%増	14,160
営業利益	256	228	12.5%増	510
経常利益	294	258	13.8%増	585
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	754	169	345.9%増	510

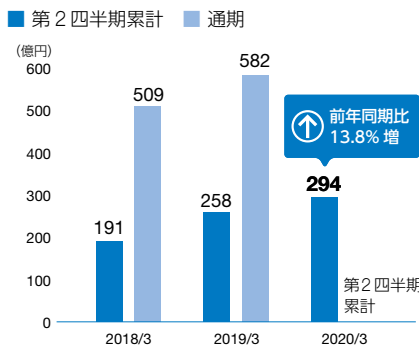
連結売上高



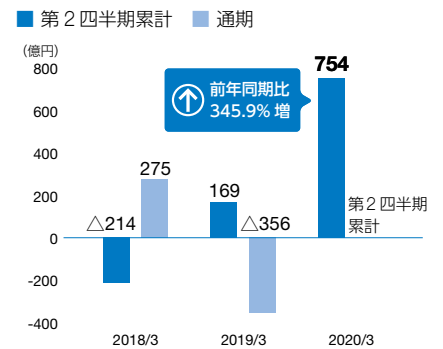
連結営業利益



連結経常利益



親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益



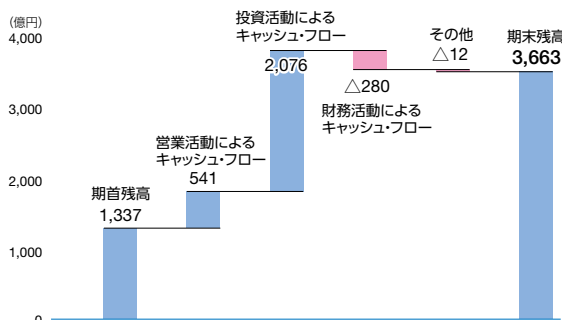
連結財務諸表 (2020年3月期第2四半期)

連結貸借対照表(要約) (単位: 百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
資産の部	1,760,412	1,775,022
流動資産	856,331	799,280
固定資産	904,080	975,742
負債の部	693,468	728,400
流動負債	397,880	467,655
固定負債	295,587	260,745
純資産の部	1,066,943	1,046,622
株主資本	885,840	823,281
その他の包括利益累計額	129,467	172,881
非支配株主持分	51,635	50,459

連結キャッシュ・フロー(要約) (単位: 億円)

現金及び現金同等物の推移(2019年4月1日から9月30日)



連結損益計算書(要約) (単位: 百万円)

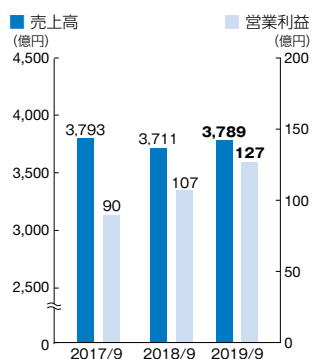
科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
売上高	694,150	685,563
売上原価	549,711	547,973
販売費及び一般管理費	118,749	114,758
営業利益	25,689	22,832
営業外収益	8,420	7,021
営業外費用	4,690	4,005
経常利益	29,420	25,848
特別利益	81,333	2,552
特別損失	1,502	1,952
法人税等合計	32,102	7,768
四半期純利益	77,148	18,680
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1,652	1,747
親会社株主に帰属する四半期純利益	75,495	16,932

連結包括利益計算書(要約) (単位: 百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
四半期純利益	77,148	18,680
その他の包括利益	△43,468	52,858
四半期包括利益	33,679	71,539
(内訳) 親会社株主に係る四半期包括利益	32,081	70,065
非支配株主に係る四半期包括利益	1,598	1,473

部門別営業報告

情報コミュニケーション部門

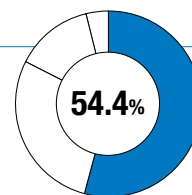


売上高	3,789億円	(前年同期比 2.1%増)
営業利益	127億円	(前年同期比 18.7%増)

売上高は、キャッシュレス化の進展にともない需要が拡大しているICカードや、企業等の業務を代行するBPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)事業などの重点事業が順調に拡大し、前年同期に対して2.1%増、7,888百万円の増収となりました。

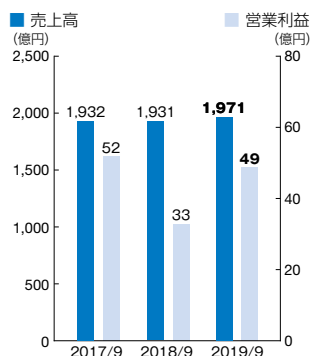
営業利益は、情報イノベーション事業、イメージングコミュニケーション事業の拡大により、前年同期から18.7%増、2,018百万円の増益となりました。

売上高構成比



BPOセンター

生活・産業部門

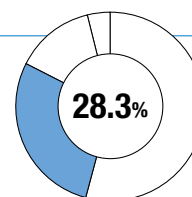


売上高	1,971億円	(前年同期比 2.1%増)
営業利益	49億円	(前年同期比 45.7%増)

売上高は、車載用途のリチウムイオン電池用バッテリーパウチや太陽電池用部材の産業資材関連のほか、PETボトル用無菌充填システムの販売が増加し、前年同期比で2.1%増、3,984百万円の増収となりました。

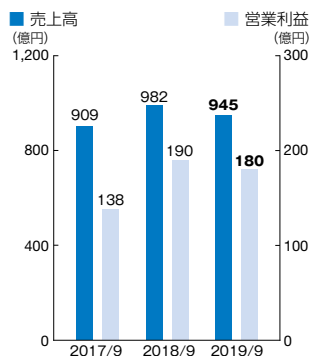
営業利益は、産業資材関連の売上の増加とフィルムなどの原材料価格の下落などにより、前年同期に対し45.7%増、1,550百万円の増益となりました。

売上高構成比



リチウムイオン電池用バッテリーパウチ

エレクトロニクス部門

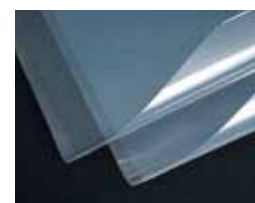
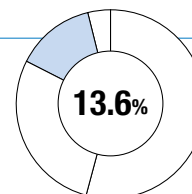


売上高	945億円	(前年同期比 3.8%減)
営業利益	180億円	(前年同期比 5.1%減)

売上高は、市場拡大が続く、スマートフォンなどの有機ELディスプレイの製造に使用するメタルマスクや光学フィルム関連が増加しましたが、液晶ディスプレイ用カラーフィルターおよび半導体製品用フォトマスクが減少し、前年同期から3.8%減、3,713百万円の減収となりました。

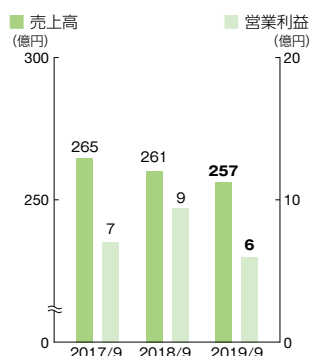
営業利益は、売上の減少により、前年同期比で5.1%減、975百万円の減益となりました。

売上高構成比



液晶ディスプレイ用
反射防止フィルム

清涼飲料部門

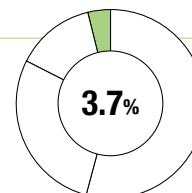


売上高	257億円	(前年同期比 1.8%減)
営業利益	6億円	(前年同期比 34.0%減)

売上高は、「コカ・コーラ」や「アクエリアス」など主カブランドの新商品を発売したほか、自動販売機事業の展開、量販店向けの販売促進活動などを強化しましたが、全般的な販売数量の減少により、前年同期比1.8%減、482百万円の減収となりました。

営業利益は、売上の減少や販売促進費の増加などにより、前年同期に対して、34.0%減、327百万円の減益となりました。

売上高構成比



清涼飲料

■ DNPのウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトでは、最新ニュースやIR情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しています。



(トップページ)



(IR情報トップページ)

● DNPのウェブサイトURL

トップページ → <https://www.dnp.co.jp/>

株主通信「DNP Report」はこちら → <https://www.dnp.co.jp/ir/library/dnp-report/>

会社情報

商号	大日本印刷株式会社 (Dai Nippon Printing Co., Ltd.)
本社所在地	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
ウェブサイト	https://www.dnp.co.jp/
創業	1876年(明治9年)10月9日
設立年月日	1894年(明治27年)1月19日
資本金	1,144億6,476万円
発行済株式総数	324,240,346株(自己株式23,594,331株を含む)
株主数	26,138名(2019年9月30日現在)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。 (当社のウェブサイト https://www.dnp.co.jp/ir/) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務に関するご案内

1. 住所変更、配当金受取方法の変更等のお問い合わせ先、お手続き窓口

- 一般口座(証券会社の口座)にある株式 株主様が口座を開設されている証券会社の本店
 - 特別口座(みずほ信託銀行の口座)にある株式
 - (お問い合わせ先) みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
 - (お手続き窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
- ※ご転居の際には、住所変更のお手続きを、必ずお願い申し上げます。

※単元未満株式に関するお知らせ

100株に満たない株式(単元未満株式)を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元(100株)になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買増請求につきましても、お取り扱いしております。

2. 未払配当金のお支払窓口(払渡し期間経過後の配当金領収証によるお受け取り)

- (お支払窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ銀行 本店および全国各支店
- (取次所) みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)



TOKYO 2020



大日本印刷



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

東京2020オフィシャルパートナー(印刷サービス)

**DNPは、東京2020オリンピック・パラリンピックの
オフィシャルパートナー(印刷サービス)です。**

● 株主通信「DNP Report」に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社 IR・広報本部 IR室

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 TEL: 03-3266-2111(大代表)

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。 ※記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。